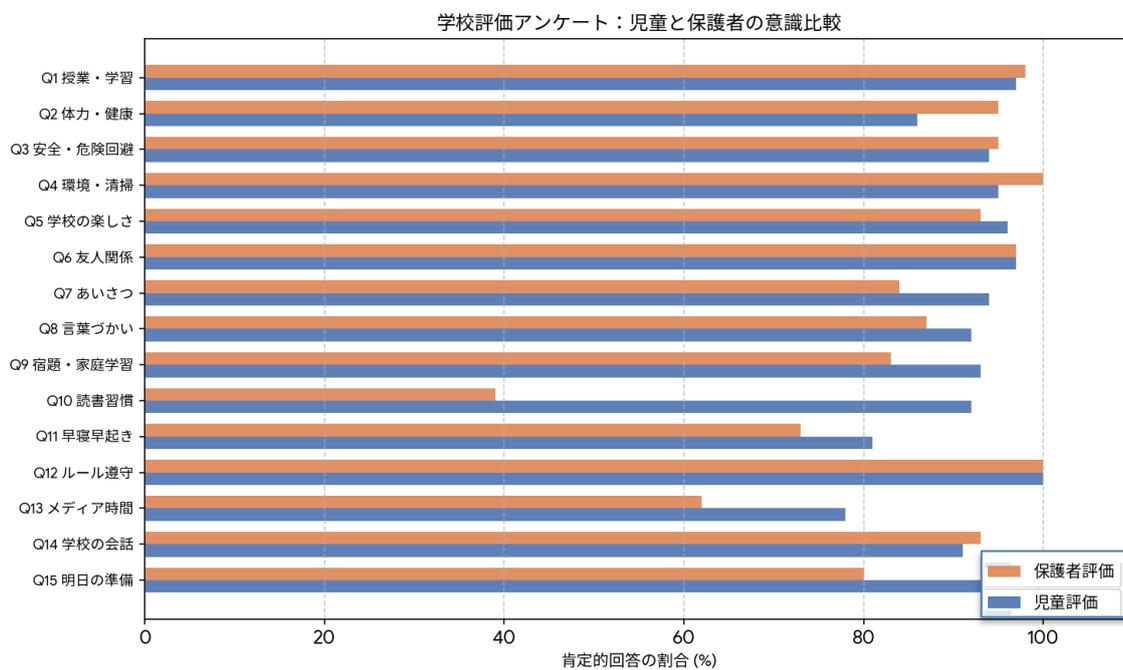


令和7年度 学校評価アンケート集計結果と考察

1. 概要

今年度の学校評価アンケートの結果、学校教育活動全体に対して、児童・保護者ともに極めて高い評価が得られました。特に「ルール遵守」「分かる授業」「友人関係」においては肯定的回答が90%を超えています。一方で、家庭での生活習慣（読書・メディア・睡眠）に関しては課題が明らかになりました。特に「児童の自己評価」と「保護者の実態評価」に大きな差異が見られました。

2. アンケート結果



3. 主な成果

- 学校生活への満足度が高い

Q1「分かる授業」、Q3「安全・危険回避」、Q5「学校の楽しさ」、Q6「友人関係」という項目で高評価である。

- 安全意識が定着している

Q12「ルール遵守」について、学校のきまりや交通ルールを守り、ほぼ全員が意識して行動できている。

- 親子の対話を大切にしている

Q14「学校の会話」について、学校のことについてよく話をする親子が多く、コミュニケーションがよく取れている。

4. 課題

以下の通り、家庭生活に関連する項目で、保護者の評価が児童の自己評価を下回っています。

重点課題項目	児童肯定率	保護者肯定率	差
Q10 「読書習慣」	92%	39%	53pt
Q13 「メディア利用」	78%	62%	16pt
Q15 「明日の準備」	97%	80%	17pt

5. 今後の対策

- 「読書習慣」の家庭への定着
 - ・週末読書を継続する。
 - ・学校図書館の本の持ち帰りの方法の見直しや、親子での感想共有を促す。
- 「メディアコントロール」の再徹底
 - ・今年度に引き続き、メディアが与える影響についての講演会を開き、家庭内ルールの再設定を依頼する。
 - ・児童自身が自律的にコントロールする力を養う授業を実践する。
- 「あいさつ」の質の向上
 - ・「相手に伝わるあいさつ」「場に応じた言葉遣い」を指導する。
 - ・教師が良い行動を褒めて伸ばす、ポジティブ行動支援を行う。
- 個に応じた対応
 - ・「学校生活の楽しさ」「友人関係」に対して、消極的な回答をした児童が約4%いた。その思いを持った児童の思いにしっかりと向き合い、個に応じた指導・支援を行うように心がける。
- 「生活リズム」を整える
 - ・生活リズムチェック等を実践して児童の生活習慣を把握する。改善が必要な児童に対して、養護教諭と連携し、声かけを行う。